

岡上町内会 事例紹介

福祉活動のヒント

区域

川崎市麻生区岡上1丁目～4丁目、5丁目の一部
(岡上旧番地(住居表示変更対象外地区)含む)

加入世帯

約2,100世帯

問合せ

麻生区役所地域振興課 044-965-5113



岡上町内会の「岡の上カフェ」の様子

岡上町内会の活動事例

福祉活動の ヒントに

「福祉活動を頑張りたい」

市内で唯一の飛び地という特徴と古い歴史と伝統に培われた文化・風俗発祥の地、岡上地区において、昭和25年に設立された岡上町内会は、その長い歴史の中で地域に根差した様々な行事や取組を行うことで成長してきました。

特に福祉の分野において、民生委員児童委員等地域福祉の専門家と連携し、平成16年から身体が利かない高齢者に軽作業の提供や傾聴等を行う「ささえあい活動」を実施。その後、活動を継続しつつ検討を重ねることで、平成29年から一歩進んだ全世代交流型「岡の上カフェ」を開始。また、地域包括支援センター等福祉の専門家と地域の福祉課題を意見交換する場である「地域情報交換会」といった先進的な取組を行っています。

町内会・自治会における福祉の役割とは何か？

岡上町内会では、民生委員児童委員等多様な主体と連携しながら、地域の福祉課題の把握や解決に寄与し、住民の生活をより良くするための基盤を築いています。

町内会における福祉の役割って何？

町内会活動を通じて、地域住民が抱える介護や子育てなど地域課題を把握をすることが大切

その上で、自分たちができることを考え

地域で活動する福祉の専門家等と連携した取組の検討を行うこと

住民や多様な主体が参画し、人と人が繋がる

究極の地域共生社会を目指して

背景

- ささえあい活動から見えてきた地域のニーズや課題
- 町内会を中心として、民生委員児童委員、地域包括支援センター、区社会福祉協議会等様々な主体との関係構築

取組

- ささえあい活動の活動を発展させた「岡の上カフェ」
- ささえあい活動の関係から生まれた「地域情報交換会」

全てはささえあい活動から、地域で助け合い、支えあうまち「岡上」を目指して

「岡の上カフェ」「地域情報交換会」など様々な取組を地域へ発信。広げよう岡上の福祉の輪

01

「ささえあい活動」

ささえあい活動とは

高齢になってくると、日常生活の困りごとが増えてくるように。買い物を手伝ってほしい、話し相手になってほしい等々。公的な諸制度やサービスでは対応できないようなことが存在。

岡上町内会では、平成16年に区社会福祉協議会、民生委員児童委員、ボランティア等と協力しながら、公的な諸制度やサービス等で対応できないような一時的で軽微な相談事に対して、地域で応えたいという想いから、地域住民による支え合う仕組み「ささえあい活動」を開始。

多様な担い手との関係構築

開始してみると相談内容は多岐にわたり、そこから見てきた諸課題はその都度見直すことに。例えば高齢者・障がい者・子どもに関する相談は、まずは民生委員児童委員、一時的な支援の相談は町内会、公的な支援を必要とする場合には区社会福祉協議会へとといったように依頼内容によって、窓口をわかりやすく整備。

岡上町内会が全体調整の役を担い、地域包括支援センター、民生委員児童委員、こども文化センター、保育園等様々な主体が協力し合う関係性を構築。

02

「岡の上カフェ」

ささえあい活動から見えてきたこと

ささえあい活動の実績を積み上げていく中で、話し相手がない、興味がわく事柄が少ないといった相談内容が多いことが判明。

支援の求めるべき形として、傾聴や外に出るよう仕向ける仕組み「話し合いの会」の創設やそこで興味の沸く内容等を新たな仕組みとして検討。

また、活動をサポートする組織として、地域包括支援センター、地域みまもり支援センター、民生委員児童委員等連携を検討することに。

岡の上カフェとは

平成29年から毎月第4土曜日、地域や世代を問わず誰もが気軽に集える憩いの場「岡の上カフェ」が岡上公会堂にて誕生。

よもぎ団子、お手玉、ふれあいコンサートなど様々な企画を地域資源を活用しながら立案し、多世代が交流できる場になるとともに、地域の文化や伝統を継承できる機会にもなっている。自力で来ることが難しい高齢者のためにボランティアによる送迎サービスもあり、全世代が楽しめる場に。

03

「地域情報交換会」

地域情報交換会とは

地域情報交換会は、ささえあい活動において関わってきた「地域包括支援センター」、「民生委員児童委員」「こども文化センター」等々の会議体や活動を統合・活用する形で、民生委員児童委員が主導の下でスタート。

年に一度、岡上で生活する高齢者の困りごとなどを民生委員児童委員だけでなく、地域包括支援センター、駐在所警察官、区役所等と様々な主体と岡上公会堂にて情報共有を行う場となっている。

取組の意義

地域に根差して活動している様々な主体が一堂に会し、孤独死や徘徊、ゴミ屋敷、高齢者の詐欺被害等実際に地域で発生している事例について、それぞれの立場から、状況共有・議論する場があることの意義は大きい。

地域包括支援センターが全体調整の機能を担い、様々な立場の方々が関わることで、これからも深刻化が予想される地域の課題に対して、新たなアイデアの創造や迅速な対応も期待できるものになっている。